

1 開 会

2 事務局挨拶

3 議 事

(1) 子どもに最適な教育環境を創るための適正化の具体案の検討について

(2) 「学校の適正化に関するアンケート調査」の検討について

ア 事務局による資料の説明

資料2によりアンケート調査の案、資料1により、第5回宇陀市学校適正化推進委員会でまとめられた学校適正化の3つのたたき台から想定されるメリット・デメリットの説明

イ アンケートに実施に関する委員の意見

- ・皆、自分の学校体験を基にしか考えられず、明らかに知識不足。このような現状で、「将来の学校の形としてどれが適当か」と聞かれても答えられない。今、アンケートをすることに反対。
- ・市民の意識を高め、様々な意見を吸い上げるという意味でアンケートは必要。
- ・学校適正化の話が市民に浸透していない中で行ったアンケート結果が、どれだけ参考になるのか疑問。
- ・学校適正化が予定されている令和9年度に小中学生になる子どもの保護者の意見は重要だと考えており、それが分かるデータがほしい。
- ・アンケートは必要と思うが、市外の学校に通わせる保護者の声を聞くなど、幅広く意見を聞く工夫がいる。
- ・アンケート自体悪くないが、広報誌を用いて市民に啓発したり、事例等を情報提供したりすることが必要。

ウ アンケートに内容に関する委員の意見

- ・アンケートの導入文を分かりやすい表現にした方がよい。また、3つのたたき台についても、資料1に示すようにそれぞれの特徴を簡潔に記した方が分かりやすい。
- ・人口が減ることを前提とせず、増えている市町村もあるので、未来に希望を持てる書き方をしてほしい。
- ・過去に、大学の誘致や美榛苑の移転など期待していたことが全部ダメになっているから、市民には希望を持ってほしいという思いがある。
- ・やはり、現実として子どもの数が減っていくことは伝え、だからこそ移住してでも通わせたい魅力ある学校はどんなものか聞けばよい。
- ・問4について、この3つはどれも適当でないと思う市民は、この選択肢では意思表示できない。もう少し広く市民の意見を聞くことができるように、自由記述欄等を設けてほしい。
- ・3つの案では、いずれも榛原西と榛原は合併ありきだが、これについては賛否両論の声が聞かれるので、3つの案以外の意見を聞けるようにしてほしい。
- ・室生からは全ての小中学校を残し、市民が自由に選べるという形を提案してきたが、反映されていない。室生はこの3つの案を、協議会でまとめたものだと思えていない。
- ・調査票Bの質問2で、何人で「たくさん」と言うのか分かりにくい。質問4もクラスの人数を細かく聞くより、クラス替えがある方がいいか否かを聞く方が、子どもにとっては分かりやすいのではないかと。通学時間やバ

ス通学等の要望についても子どもの声を聞いたらどうか。

- ・Webの特性を生かして、小中一貫校等の知識をゲーム感覚で学べるアンケートは工夫できないか。
- ・市民への浸透が低い中、自分事としてアンケートに取り組んでもらうために、インパクトのある表現が必要。
- ・学校適正化のホームページの閲覧件数も100件もないと想像する。どうやったら市民に興味を持ってもらえるかということもこのアンケートで聞いたらいい。

エ その他の委員の意見

- ・市の教育メールにもアンケートを送ったら回答率も上がると思う。
- ・市民から抽出して行うアンケートは、地域住民の意見を集約している自治会長を調査対象に含めたい。
- ・一般市民を無作為に3000名抽出とあるが、各地域で回答者数に偏りが出ないようにしてほしい。
- ・宇陀市の未来を決める大切な話なので、急がず丁寧に進めていくべき。事務局は状況に応じて変更すればいいと言うが、一度潰した施設を再び建てることは難しい。市民が十分に理解を深めた上で決めたい。

●事務局の回答

- ・必要な情報は最小限にとどめ、多くの市民に回答してもらいやすいようにコンパクトにまとめた。知識不足の点があれば、各組織で行う学習会に事務局を呼んでほしい。
- ・委員から出された案を集約すると概ねこの3つの案にまとまることについては、前回の会議で確認している。たたき台なので、ここから変わることは考えられる。だからこそ今、市民の意見が必要。
- ・学校適正化に対する市民の意識を高め、理解を深めるきっかけとしてのアンケートと捉えてもよい。3月中には調査結果をこの委員会で示したいので、それが可能な一番遅い日にアンケートを入稿させたい。
- ・一般市民の調査対象については人口比率で抽出するが、問1で回答者の居住地域を聞いているので、各地域でどんな意見が多かったのか分析できる。

○委員長のまとめ

- ・アンケート調査の結果の多数決で適正化の形を決めるのではなく、今後の議論を進める基礎資料として活用する。
- ・推進員会で皆が真剣に考えていることを周知、啓発する意味も込めてアンケートを実施する。
- ・調査対象の公平性を担保するが、自治会長は含める。
- ・調査内容については誘導的にならず、ビジュアルな資料も入れて、丁寧に説明する。
- ・導入文については、インパクトのある文で市民に関心を持ってもらう。人口減少の現状は直視しつつ、夢を語るができるような表現を工夫する。
- ・問4は択一ではない聞き方を工夫することが必要であり、記述案も検討する。
- ・情報を載せれば載せるほど細かくなる。このアンケートで完璧なものを得るものではないことを含んだ上で、アンケート結果を慎重に読み解く。そこで必要であれば、再度ヒアリングやミーティングをすることも考えられる。

4 連絡事項

- ・次回の第7回宇陀市学校適正化推進委員会は3月24日（金）18時から宇陀市立榛原小学校で開催予定。

5 閉 会